

# デミレル大統領 をむかえ開所式

## トルコ独立行進 曲でスタート!

9月29日、ヤザキサバパンチ自動車用組電線製造販売会社(YST)の開所式が、デミレル大統領の出席のもと、盛大に執り行われた。

空はどこまでも青く、初秋とはいえず差しは刺すように暑いなか、通産大臣以下、トルコ政府関係者、サカリヤ県知事以下地元関係者、多数の地域住民の人たち、日本総領事ご家族、在トルコ日系カーメーカーと在欧銀行関係などのお客さま、およびサキップサバパンチホールディング会長、矢崎社長夫妻と昌子ユーベルシユウガ様以下YST関係者が、デミレル大統領の到着を待って、トルコ独立行進曲が君が代の吹奏で、開所式はスタートした。

デミレル大統領は、「日本は、トルコの特許価値を十分理解したがゆえに投資が促進され、多くの日本・トルコ合弁会社の設立や工場建設がなされ、また、進みつつある。さらに、日本政府の援助により、多くの協力事業が推進されている。これらは、喜ばしいことであるが、これを機会に、日本の経済界は、さらにトルコに関心を持ち、投資が促進されることを期待する」と述べた。

矢崎社長は、トルコの古来からの地政学的・通商的重要性と、その重要性がベリリンの壁の崩壊後、さらに高くなったと述べたあと、「世界の自動車業界は、激烈な風が吹き荒れ、大波が逆巻く嵐の海であり、ヤザキ



(写真上) 完成なったYSTの外観  
(写真下) トルコ独立行進曲で開所式がスタート。左より、デミレル大統領、シユブケツトサバパンチホールディング副会長、矢崎社長夫妻、サキップサバパンチホールディング会長、昌子ユーベルシユウガさま、富原YST社長



キヤサバパンチは、その嵐の海を漕ぎわたる船である。そして、「地域の皆さまとの協力を得て、船長の富原以下、全員が無事に嵐の海をわたれるよう、ご協力をお願いします」と挨拶した。

また、従業員的生活向上のためにも、「私は、このトルコに、骨を埋めるつもりで頑張ります」との富原社長のスピーチは、翌日のトルコデシリニューズにも取り上げられ、YSTに対するトルコの皆さまの関心の高さを、示している。

また、トルコは、アンカラである。しかし、われわれ日本人には、ヨーロッパ側の中心地イスタンブールの方が、その歴史的意義と風光明媚がゆえに良く知られている。

### イスタンブール

トルコの首都はアンカラである。しかし、われわれ日本人には、ヨーロッパ側の中心地イスタンブールの方が、その歴史的意義と風光明媚がゆえに良く知られている。

### YSTへの道

YSTは、ヨーロッパ側のイスタンブールから、ボスボラス橋を渡ってアジア側にわたり、高速道路を東に約一七〇キロメートル



(写真上) シユブケツトサバパンチホールディング副会長を迎える矢崎社長夫人  
(写真下) 富原YST社長の説明を受けるデミレル大統領(左)

(写真上) 完成なったYSTの外観  
(写真下) トルコ独立行進曲で開所式がスタート。左より、デミレル大統領、シユブケツトサバパンチホールディング副会長、矢崎社長夫妻、サキップサバパンチホールディング会長、昌子ユーベルシユウガさま、富原YST社長



(写真上) YST従業員に囲まれる矢崎社長、サキップサバパンチホールディング会長、昌子ユーベルシユウガさま  
(写真下) 開所式に先立つアトラクション

【経緯】  
一九九六年一月一日、工場建設地の隣接地を賃借し、従業員一〇五名でワイヤーハーネスの生産開始  
同年四月末、工場四〇〇〇平方メートルが部分竣工、設備移設  
同年七月一日、ISO 9002取得活動 キックオフ  
同年七月二日、工場竣工・移転、八月一日より新工場にて全面操業開始  
一九九七年六月六日、ISO 9002の本審査受審合格(TSEイスタンブール同時取得)

【事業内容】  
自動車用ワイヤーハーネスの製造・販売  
敷地面積 五万平方メートル  
建物面積 一万二九五二平方メートル  
工場倉庫、事務所、厚生棟、ゲストルーム、従業員宿舎ほか  
社長 富原 謙  
副社長 一七五・女子四八八。本年末に八〇〇名の子

【資本】  
資本金 一六〇〇万米ドル  
出資比率 矢崎総業七割、サバパンチグループ二五割